

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(上野東照宮 冬牡丹)

十二月に入り、どことなく街全体が忙しくなってきた。私も、周りの雰囲気は飲まれるようにして気持ちだけが逸り、年末年始が近づくとつれて何となくそわそわしている。急に急かされているのかよく分からないが、何かに追われるような気持ちになっているのは間違いない。

よくよく考えてみると、年末年始を迎えるにあたって、毎年同じような気持ちになっていたのだと、今になって思われる。これまでに、私を追い回す正体を追求した事はなかったが、「期待と不安」という言葉がふと頭をよぎる。

「来年も今年と同じように過ごせますように」、「悪い事が起きませんように」と願う心は、期待の裏側に潜む見えない不安によって生み出され、その不安を解消するとなると、掴み所のないものに対し、解消する方法が見つからないのは当然である。

推進力

年末年始に限らず、見えない不安を感じる事はある筈だが、特に年末に於いては、新年に期待する気持ちと同時に不安も感じられてくる。そうになると、いともたつてもいられないような気持ちになるが、実際どのように行動すればいいのか分からない。これが、年末年始に於ける落ち着かない理由の一つではないかと思う。

予測の付かない事に不安を覚え、理想通りにならない現実の不満を抱き、気付いてみれば一年があつという間に過ぎていく事にも、どこか焦りを感じているのかもしれない。私の思いを満たそうとするだけでなく、頂いたこの身の有り難さを尋ねるきっかけとして、この世から急かされているように感じる。

(大橋 伊知郎 記)

歳暮法要 平成29年12月31日(日)
午後3時～3時30分 おつとめ
修正会 平成30年1月1日(月)
朝7時～8時 おつとめ・法話
8時～ おとき
(西徳寺会館2階にてお雑煮の接待)

せいぼ しゅしょうえ
歳暮法要と修正会のご案内

一年の最後のおつとめであります
「歳暮法要」と、新しい年を迎えさせ
て頂く最初のおつとめであります
「修正会」へのお誘いをいたします。
難しいお話はやめて「川柳」に今年
一年色々なことがあった私の生きざ
まを、聞いてみましょう。

「ぬけぬけと 鬼は外とは その口で」
「青信号 オレが行くまで 変わるなよ」
「冬嫌い 半年たてば 夏嫌い」
「我が家では 暖かいのは 便座だけ」
「おかし愛 すこしまえ金 いまいのち」
「酒代を とやかく言うな 化粧代」
「スマートフォン 妻と同じで 操れず」
「名に願ひ 込めたとおりに ならない子」
「ゴキブリを 殺したいけど 白い壁」
「泣きながら 大きい方取る 形見分け」
「何を塗り 何を飲んでも 年は取る」
「病室に 嘘とメロンを 置いてくる」
「厄払い したのにクジで 自治会長」
「わがいのち 今年もあつたか 除夜の鐘」
全てのことがあり難いと頂き、気
づかねばならない私は、今年もダメ
でした。
これでよいのか、よい筈がない、自
問自答の一年でありました。
除夜の鐘の音と共に、新しい年を
迎えさせて頂きます。



「元旦や 今日のいのちに 遇あう
不思議」
「おめでどう」は、生かされて生
きていることに目覚めたよろこ
びのことはであります。今年こそ
「おめでどう」と言える私になり
たいものです。
ついでに、お正月の川柳も一句。
「幸せを 小銭で願う 初詣」
「年一度 行くだけなのに 初詣」
「大凶は 賽銭箱に 戻しとく」
「お年玉 もらった途端に 帰る孫」
ご家族揃って、ごいっしょにお
参り致しますよう。お待ちしておりますお
ります。
(住職 脇阪 義幸)

平成30年(1~6月)
西徳寺のあゆみ

(予定を変更する場合があります)

1月

元日(月) 修正会
7日(日) 婦人会新年会
13日(土) 合唱団エコー練習
20日(土) 定例聞法会
21日(日) 評議員会新年会
23日(火) 仏教青年会
25日(木) 『歎異抄』に聞く
27日(土) 同行会新年会・合唱団エコー練習

2月

4日(日) 城東ブロック会聞法会
10日(土) 同行会
17日(土) 定例聞法会・合唱団エコー練習
18日(日) 城南ブロック会聞法会

21日(水) 婦人会聞法会
22日(木) 『歎異抄』に聞く
24日(土) 同行会・合唱団エコー練習
27日(火) 仏教青年会

3月

3日(土) 評議員会定例役員会
6日(火) 仏教青年会レクレーション
10日(土) 定例聞法会
11日(日) 城北ブロック会聞法会
14日(水) 婦人会聞法会
18日(日)~24日(土) 春季彼岸会
22日(木) 聖徳太子奉讃会・本山差向布教・
春季永代経法要
30日(金) 『歎異抄』に聞く
31日(土) 同行会修習式

4月

14日(土) 同行会総会
17日(火) 仏教青年会総会
18日(水) 婦人会総会
21日(土) 定例聞法会

25日(水) 『歎異抄』に聞く
29日(日) 中央ブロック会総会

5月

12日(土) 同行会
16日(水) 婦人会聞法会
20日(日) 城南ブロック会総会
22日(火) 仏教青年会
24日(木) 『歎異抄』に聞く
26日(土) 定例聞法会
27日(日) 城西ブロック会総会

6月

2日(土) 評議員会定例役員会
9日(土) 同行会
10日(日) 城北ブロック会総会
16日(土) 定例聞法会
17日(日) 評議員会総会
20日(水) 婦人会聞法会
24日(日) 城東ブロック会総会
27日(水) 『歎異抄』に聞く

親鸞さんのことば

誠なる哉、
撰取不捨の真言、
超世希有の正法、
聞思して遅慮すること莫れ。

「総序」

松井憲一

お念仏に出遇ったよくよくのご縁を空しくする「疑いの網」は、自分の力で消し去ることはできません。しかし、どうすることもできない疑いの網の深さに気づき、自分の力では断念せざるを得ない時が到来すると、救われない身に呼びかけ続けられてくださった阿弥陀仏の本願が、再び響いてきます。「誠なる哉（なんと誠であることよ）」とは、その本願に再会した感銘でしょう。それで、親鸞聖人は、私たちのために御苦労くださっている如来の誠の教えを「撰取不捨の真言（すべての衆生を撰め取って捨てない言葉）」「超世希有の正法（世間を超えすぐれた教え）」と讃えられます。

「撰取不捨」について、聖人は「十方微塵世界の念仏の衆生をみそなわし撰取してすてざれば阿弥陀となつてたてまつる（浄土和讃）」と、念仏する人を見守り、光のうちに撰め取って捨てないから、阿弥陀仏と名づけ奉るといわれます。そして、「撰」の字には、「セツハ、モノノニグルヲ、オワエトルナリ」と、左仮名をふられます。つまり、阿弥陀と名づける撰取不捨のはたらきは、阿弥陀仏のはたらきを疑い背いて逃げようとも、追いかけて捕まえてくださるのであると領解されます。「真言」は、その阿弥陀仏のはたらきを教えることであるお釈迦さまの真実の言葉のことで、疑い迷っている私をまるごと救う道を示されます。

「超世希有」の「超世」は、阿弥陀仏の誓いが、他の仏さま（諸仏）の誓いに超えすぐれていることをいいます。聖人は、苦悩を遠ざけ消すことが幸せだと思ってお念仏まで利用しようとする疑い深いわれらを、救おうとする大悲の心を、「希有の正法」と讃えられます。

こうして、私たちが疑いの網を超える道が「撰取不捨の真言、超世

希有の正法であるといわれて、「聞思して遅慮すること莫れ」と示されます。「聞思して」とは、しっかりと聞き、わが身にひきかけてよくよく思えというお勧めです。しかし、聞けば解るはずだと思つていゝる虚仮不実のわたしの耳では、「聞き耳は立てるが聞こえる耳持たず」になります。だから、多くの時間をかけて聞いても、カヤの外で聞くことになり、「真言・正法」の呼びかけが聞こえてくることはありません。まことに聞思は、聞こえるはずのない無耳の者が、それでも聞く場に座しているという、わが身に立ち止まって、そうしていることの事実深く思いをいたすほかありません。この不思議な事実のところ、「真言・正法」がすでに呼びかけられているのです。

「遅慮すること莫れ」とは、疑いを超えていく「撰取不捨の真言、超世希有の正法」の呼びかけに、励ましを受けて、聞思を尽くそうといわれるのです。「教えはわかるまで聞け、わかつたらわからなくなるまで聞け」といわれた人がいます。

聖人は、「聞」について「衆生、仏願の生起・本末を聞きて疑心あるこ

となし（衆生が、仏の願いが起こされた本のころとその結果を聞いて疑う心がないこと）」といわれて、仏の願いを聞きとることが疑いをなくする信心の道であるといわれます。

そして、「信にまた一種あり。一つには聞より生ず、二つには思より生ず。この人の信心、聞より生じて思より生ぜざる、このゆえに名づけて「信不具足」とす」といわれて、仏の願いを聞くことを通して、私を救うためであったという領きが念々に頂けるまで聞き抜こうといわれるのです。



山門の言葉

孤独は山になく、街にある

哲学者 三木 清

この言葉は、三木清氏の著書、『人生論ノート』に出てくる一節である。私たちは孤独という言葉を日常でよく使っている。しかし近年、大きな社会問題になっている「孤独死」のように、あまりいい言葉としては用いていないように思う。

孤独とは、身寄りがなくひとりぼっちであること、と辞書にある。普通に考えれば、街には大勢の人が溢れ賑わっているが、山はひっそりとして人の気配はほとんどないだろう。どちらかといえば、孤独を感じるのは街ではなく山のほうだろう。なぜ三木氏はこのような言葉を残されたのか。一体この孤独ということで、何がいい表されているのだろうか。

人は身と土で形成されていると教えられる。身は肉体のことである。土とは環境のことであり、自然環境と人間環境がある。自然環境は、山川草木、田畑等のことであり、人間環境とは、親子・兄妹・夫婦・友人等、私たちが生きている上で築きあげていく、さまざまな人との関係のことである。

山と共に生活をしている人は、一見すると孤独に見えるが、常に山の声に耳を傾け、山の恩恵によって、自分自身がいろいろないのちの犠牲の上に生かされていることを、肌で実感しておられる。

対して街はどうか。人々が行き交い、活気に満ちあふれているように見えるが、実際はお互いの利害関係が一致する時のみ関係を築き、都合が悪くなれば身内でも平気で切り捨てていく。それが私たち人間の業(いとなみ)ではないだろうか。

山が善で街が悪ということではない。どこまでも自我に縛られ、自分の殻に閉じこもり、他との関係を断絶する。そういう自分勝手な生き方に執着する私たち人間の集まりを街で喩え、その姿を孤独という言葉で表現しているのだと思う。

人との関係だけでなく、自然との関係を縁として、自分自身の生き方、どういいうのちの恵みをいただいて、今生きているのか。あらためて問うていかなければいけないのではないか。

(蓮井 邦宗 記)

平成30年(7~12月) 西徳寺のあゆみ

(予定を変更する場合があります)

7月

1日(日)~2日(月) 仏教青年会研修旅行
7日(土) 同行会
13日(金)~16日(月) 盂蘭盆会
(10日よりお盆のお参りに伺います)
22日(日) 中央ブロック会間法会
24日(火) 仏教青年会夏季ミーティング
25日(水) 婦人会間法会

8月

13日(月)~16日(木) 盂蘭盆会
26日(日) 青年会主催バーベキュー大会

9月

2日(日) 評議員会定例役員会
5日(水) 婦人会間法会
8日(土) 同行会
11日(火) 仏教青年会
15日(土) 定例間法会
20日(木)~26日(水) 秋季彼岸会
22日(土) 秋季永代経法要

10月

7日(日) 城西ブロック会間法会
13日(土) 同行会
17日(水) 婦人会間法会
20日(土) 定例間法会
21日(日) 城南ブロック会間法会
23日(火) 仏教青年会
28日(日) 城東ブロック会間法会

11月

3日(土)~4日(日) 報恩講
10日(土) 同行会
11日(日) 中央ブロック会間法会
13日(火) 仏教青年会報恩講
14日(水)~15日(木) 婦人会旅行(予定)
18日(日) 城北ブロック会間法会

12月

8日(土) 同行会
12日(水) 婦人会間法会
15日(土) 定例間法会
評議員会定例役員会
31日(月) 歳暮法要



おとしじ 婦人会だより

第338号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

～法語カレンダーに聞く～ (2017年10月)

「ねてもさめてもへだてなく 南無阿弥陀仏をととなうべし」

先月、当寺で報恩講が勤まった。布教使の先生が法話の中で、「寝ている間とはもかくとして、起きている間に一日どれくらいお念仏を称えていますか」と問いを出されると、あるお同行が「朝起きた時と夜寝る前の2分くらいです」と答えられた。

残りの時間、私たちの口からは愚痴や文句、批判や願望ばかりが次から次へと出てくる。愚痴ばかり出るこの口を通して、お念仏が出てくることの不思議さと、私たちの努力で念仏を称え続けることの困難さをあらためて教えてくださった。

「ねてもさめてもへだてなく」とは、寝ていようが起きていようが、私の思いはからいを超えて、常に阿弥陀仏のはたらきが、愚痴ばかりのこの私にまで届いている。お念仏は私たちがとなえる行ではなく、我々一切衆生を救わんとする阿弥陀仏の行である。私のこの愚かな身を、我が事の如く痛み悲しんでくださる大きな慈悲のはたらきに気づかせていただき、念仏申していくことが恩に報いる生活ではないだろうか。(蓮井 邦宗)

せんねん灸体験会のお知らせ

12月13日(水)の聞法会後、せんねん灸体験会が開催されます。参加無料で、午後3時半から約1時間の会となります。お時間のある方は是非残っていただいて、お灸体験をしてみませんか。詳しくは、担当蓮井までお問い合わせください。

婦人会新年会のご案内

日 時 平成30年1月7日(日)
午前11時～午後2時
場 所 本 堂(勤行・挨拶)
梅檀の間(懇親会)
会 費 2,000円
申込開始 12月4日(月)
申込締切 12月29日(金)

お問い合わせは、担当蓮井まで

次回聞法会のご案内

日 時 平成30年2月21日(水)
午後1時30分～3時
場 所 西徳寺 星月の間
法 話 法語カレンダーに聞く
(真宗教団連合カレンダー)
「信心のさだまるとき
往生またさだまるなり」
最高顧問 大谷 義博
蓮井 邦宗

※聞法会の開始時間が変更となります。平成30年2月の聞法会より、午後1時30分からの開始となります。何卒宜しく願い致します。

ひとこと

報恩講も終わり、今年も僅かとなってまいりました。この度は、初めての婦人会主催の報恩講ということで、浪曲師の玉川奈々福さんと、曲師(三味線)の沢村豊子師匠をお招き致しました。

自作の『親鸞聖人御伝記 六角堂示現の巻』では、聖人が悩みぬかれていくご苦労が、身近に感じる熱の入った語り身に引き締められ、ご生涯の一齣が短い中に分かり易く伝わり、大変感激致しました。

『金魚夢幻』では、なんと金魚が主人公!これも自作の浪曲で、浅草の金魚屋さんが繊りなす人情味と、ユーモアたっぷりのお話で、奈々福さんの高らかな声と、豊子師匠の張りのある響きが本堂に広がり、拍手喝采で終わりました。(吉川 昌子)

掲示報

平成29年12月

1日(金) 午後4時	総代会
2日(土) 午後3時15分 午後3時半	混声合唱団エコ練習 評議員会役員会
9日(土) 午後6時	同行会「現代の聖典」に聞く 法話 高橋淳
13日(水) 午後1時	婦人会聞法会
15日(金) 午後1時40分	合唱団主催オペラ鑑賞会 (日暮里サニーホール)
16日(土) 午後1時半	定例聞法会
20日(水) 午後1時半	『歎異抄』に聞く 講師 宗正元師
31日(日) 午後3時	歳暮法要

聞法会だより 城南ブロック会

台風22号直撃の10月29日(日)2時から、三軒茶屋のレンタルスペースSFにて会員18名の参加をもって開催されました。今回は真宗の要でもある「他力」について学びました。大谷顧問よりご法話頂き、他力とは人任せではなく、すでに私達の日々の生活、生老病死の営みそのものを支えるはたらきであると話されました。聞き慣れた言葉の真意に皆、耳を傾けておられました。

その後の懇親会では、自己紹介や質問、感想などを交え、賑やかに過ごしました。

次回は2月18日(日)を予定しておりますが、場所は未定です。万障繰り合わせてのご参加をお待ちしております。(山崎 哲)



編集後記

大学で「地球科学」という耳慣れない研究をされているご門徒さんにお会いしました。地球が誕生して約36億年ともいわれる歴史の中で、地質学を専門にしておられるそうです。実際の研究について伺ったところ、とても時間がかかる作業の連続だそうです。

たとえ「ノーベル賞」を受賞した科学者であっても、閃きで発遣されることはほぼ不可能で、あらゆる可能性を一つ一つ追求していく、気の遠くなるような作業を要するそうです。しかし、それがまた面白いところなんだと、目を輝かしているお姿にとっても感銘を受けました。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

[HP http://saitokuji.tobihiro.jp/](http://saitokuji.tobihiro.jp/)

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com

えこお志お礼

台東区 森下 幸雄 様
武蔵野市 井手 明彦 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

日誌

- 10月14日 混声合唱団エコ練習
同行会「現代の聖典」に聞く 法話 木村主任
- 10月15日 台東区合唱祭
(東京藝術大学・奏楽堂 混声合唱団エコ出演)
- 10月17日 『歎異抄』に聞く 講師 宗正元師
- 10月18日 婦人会聞法会
- 10月21日 定例聞法会
- 10月24日 青年会座談会
- 10月25日 仏具磨き(参加者10名)
- 10月27日・28日 宗祖忌
- 10月29日 城南ブロック会聞法会
(三軒茶屋 レンタルスペースSF 参加者18名)
混声合唱団エコ練習
- 11月4日・5日 報恩講 両日布教使 中井賢隆師
- 11月5日 報恩講奉讃法座 婦人会主催浪曲口演
玉川奈々福師・沢村豊子師
- 11月7日・8日 中興忌